

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

	青少年の国際交流の推進			担当部局庁	総合教育政策局	作成責任者				
事業開始年度	平成14年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	国際教育課	国際教育課長 石田 善顕				
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	日独青少年交流の強化についての共同発表(平成9年6月20日) 日韓共同未来プロジェクト(平成14年7月1日) 新成長戦略(平成22年6月18日閣議決定) 子ども・若者ビジョン(平成22年7月23日子ども・若者育成支援推進本部) 観光立国推進基本計画(平成29年3月28日閣議決定) グローバル人材育成推進会議審議まとめ(平成24年6月4日グローバル人材育成推進会議) 今後の青少年の体験活動の推進について(平成25年1月21日中教審答申) 教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定)					
主要政策・施策	観光立国、子ども・若者育成支援			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際化が進展する中、青少年自らが国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくことが重要な課題となっているため、青少年に対し、国内外における異文化体験や青少年交流等の機会を充実させ、国際的な視野を養う意識を高める。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①青少年国際交流推進事業 国内外の青少年指導者及び次代を担う青年リーダー、高校生の海外派遣・日本招へいを行い、青少年の現状や問題点等についての意見交換や、青少年育成活動、施設等の特性を生かす研修を伴った相互交流事業を行う。 ②地域における青少年の国際交流推進事業 文化の異なる国の青少年を招へいし、概ね1週間程度の宿泊を伴う英語による共同生活を体験する機会を提供することにより、地域への愛着を持ったグローバル人材の育成や英語学習へのモチベーションの維持・向上に資する。									
実施方法	委託・請負									
予算額・執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	64.2	58.2	50.7	50.7	50.7			
		補正予算	-	▲44.6	▲8.7					
		前年度から繰越し	-	-	-					
		翌年度へ繰越し	-	-	-					
		予備費等	-	-	-					
	計		64.2	13.6	42	50.7	50.7			
	執行額		57	5.5	8.8					
	執行率 (%)		89%	40%	21%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		89%	40%	21%						
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由						
	教育政策推進事業委託費	48.1	44.3							
	職員旅費	1.9	1.9							
	諸謝金	0.5	0.4							
	庁費	0.1	4.1							
	委員等旅費	0.1	0							
	計	50.7	50.7							
活動内容 (アクティビティ)	国内外の青少年指導者及び次代を担う青年リーダー、高校生の海外派遣・日本招へいを行い、青少年の現状や問題点等についての意見交換や、青少年育成活動、施設等の特性を生かす研修を伴った相互交流事業を民間団体に委託する。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する	青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する事業数	活動実績	件	7	2	5	-	-	
			当初見込み	件	7	7	7	7	7	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	決算額(X)÷事業数(Y)			単位当たり コスト	円	6,198,714	63,840	817,303	5,980,285	
				計算式	円/数	43,391,004/7	127,680/2	4,086,519/5	41,862,000/7	

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度
	「青少年国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年の外向き志向の平均が、事後10%以上増加していること。	「青少年国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年の外向き志向の平均値(0.1,2,3の4段階評価平均)の増加率 ※ 増加率の計算式(事後の外向き志向の平均値 - 事前の外向き志向の平均値) / 事前の外向き志向の平均値		成果実績	%	15	15	1.4
		目標値	%	10	正の値	正の値	正の値	-
		達成度	%	150	100	100	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	「青少年国際交流推進事業」事業参加者アンケート							
活動内容(アクティビティ)	国内外の青少年指導者及び次代を担う青年リーダー、高校生の海外派遣・日本招へいを行い、青少年の現状や問題点等についての意見交換や、青少年育成活動、施設等の特性を生かす研修を伴った相互交流事業を民間団体に委託する。							
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する	青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する事業数		活動実績	件	7	2	5
		当初見込み	件	7	7	7	7	7
単位当たり コスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	決算額(X) / 事業数(Y)		単位当たりコスト	円	6,198,714	63,840	817,303	5,980,285
		計算式	円/数	43,391,004/7	127,680/2	4,086,519/5	41,862,000/7	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度
	「青少年国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年のうち、事後アンケートにおいて外向き志向であると回答した割合が80%以上であること。	「青少年国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年のうち、事後アンケートにおいて外向き志向であると回答した割合が80%以上であること。		成果実績	%	98.2	89.6	96.6
		目標値	%	80	100%に み 及ぶ	100%に 超 える		-
		達成度	%	122	89.6	96.6	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	「青少年国際交流推進事業」事業参加者アンケート							
活動内容(アクティビティ)	国内外の青少年指導者及び次代を担う青年リーダー、高校生の海外派遣・日本招へいを行い、青少年の現状や問題点等についての意見交換や、青少年育成活動、施設等の特性を生かす研修を伴った相互交流事業を民間団体に委託する。							
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する	青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供する事業数		活動実績	件	7	2	5
		当初見込み	件	7	7	7	7	7
単位当たり コスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	決算額(X) / 事業数(Y)		単位当たりコスト	円	6,198,714	63,840	817,303	5,980,285
		計算式	円/数	43,391,004/7	127,680/2	4,086,519/5	41,862,000/7	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度
	事業後、事業参加者1人あたり50人以上に事業成果の発表を行うこと。(平成29年度より新たに追加)	事業参加者1名当たりの成果発表対象者数の平均値(平成29年度より新たに数値を取得)		成果実績	人	163.5	86.9	56.5
		目標値	人	50	60	60	60	-
		達成度	%	327	145	94	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	「青少年国際交流推進事業」事業実施報告書							
活動内容(アクティビティ)	文化の異なる国の青少年を招へいし、概ね1週間程度の宿泊を伴う英語による共同生活を体験する機会を提供する事業を、都道府県・指定都市に委託する。							
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	青少年に国際交流の機会を提供する	青少年に国際交流の機会を提供する事業数		活動実績	件	3	3	3
		当初見込み	件	3	3	3	2	2

単位当たりコスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	決算額(X) / 事業数(Y)						単位当たりコスト	円	3,722,066
			計算式	円/数	11,166,200/3	4,836,197/3	4,206,735/3	6,218,000/2	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度	
	「地域における青少年の国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年の外向き志向の平均が、事後10%以上増加していること。	「地域における青少年の国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年の外向き志向の平均値(0,1,2,3の4段階評価平均)の増加率 ※ 増加率の計算式(事後の外向き志向の平均値 - 事前の外向き志向の平均値) / 事前の外向き志向の平均値	成果実績	%	6.1	13.9	8.2	-	-
			目標値	%	10	正の値	止の値	正の値	-
			達成度	%	61	100	100	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	「地域における青少年の国際交流推進事業」事業参加者アンケート								
活動内容(アクティビティ)	文化の異なる国の青少年を招へいし、概ね1週間程度の宿泊を伴う英語による共同生活を体験する機会を提供する事業を、都道府県・指定都市に委託する。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	青少年に国際交流の機会を提供する	青少年に国際交流の機会を提供する事業数	活動実績	件	3	3	3	-	-
			当初見込み	件	3	3	3	2	2
単位当たりコスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	決算額(X) / 事業数(Y)						単位当たりコスト	円	3,722,066
			計算式	円/数	11,166,200/3	4,836,197/3	4,206,735/3	6,218,000/2	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度	
	「地域における青少年の国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年のうち、事後アンケートにおいて外向き志向であると回答した割合が80%以上であること。	「地域における青少年の国際交流推進事業」に参加し交流を行った日本の青少年のうち、事後アンケートにおいて外向き志向であると回答した割合	成果実績	%	99.1	97	99.4	-	-
			目標値	%	80	100%に近づける	100%に近づける	100%に近づける	-
			達成度	%	99.1	97	99.4	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	「地域における青少年の国際交流推進事業」事業参加者アンケート								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							チェック	<input checked="" type="checkbox"/>	

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	1 新しい時代に向けた教育政策の推進	
	施策	1-2 海外で学ぶ児童生徒等に対する教育機能の強化	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_1-2.pdf
			該当箇所	P3~4
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-
(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:			-	-
該当箇所			-	-

事業所管部局による点検・改善

		項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性		事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	グローバル化が進展する中、国際的に活躍出来る人材の育成が求められており、国際的な視野を養う意識を高めるために青少年へ国際交流の機会を提供することは、社会のニーズを反映していると判断する。
		地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	教育振興基本計画において、グローバル人材の育成は国の重要な課題と位置づけられており、国が中心となって、地方自治体や民間団体等と適切に連携を図りながら事業を進めることが重要である。
		政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	両国首脳による青少年交流に関する合意等に基づいており、政策優先度が高い。
事業の効率性		競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一者応募になった事業は日独・日韓のテーマに基づく派遣・受入を中心とした事業であり、安全管理の担保や相手国側実施団体との連携が必要であることにより、結果として、一者応募になったことが考えられる。事業公募期間の十分な確保や広く事業を周知するなどにより、事業者が応募できる状況を検討する。
		一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
		競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○	委託要項等に基づき、事業を実施する上で、必要な経費にのみ限定して支出を行っており、妥当である。
		単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	必要最低限のコストのみを計上しており、単位当たりコスト等の水準は妥当である。
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	国の契約及び支払に関する規定の趣旨に従い、経費の効率的な使用に努めていると認められる。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業経費の費目、使途の内容を厳正に審査するため、現地調査や担当者へのヒアリングを実施している。
		不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	不用率が大きくなっている理由は、新型コロナウイルス感染症の影響からやむを得ず実施できなかった事業が複数あり、予算の執行ができなかったためである。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	支出先の選定に当たっては、外部有識者による審査を実施し、費用対効果の高い事業となるようアドバイスしている。	
事業の有効性		成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-
		事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	前年度より4万円程度上昇しているが、実施事業数は5事業から8事業に増えており、低コストかつ効率的に実施できた。
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	新型コロナウイルス感染症により、実施できなかった事業もあったが、オンライン等を活用して実施できる事業は工夫して実施した。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	成果発表会等を実施し、成果の普及を図っているとともに、ホームページに掲載するなどの工夫を行っている。	
関連事業		関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
		事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	交流を行った日本人青少年等の外向き志向の割合についておおむね目標を達成している。今後とも、当該事業が効果的に実施されるとともに、事業参加者のみならず、国内の青少年の国際性向上につながるよう、一層の工夫が必要である。
	改善の方向性	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響からやむを得ず実施できなかった事業が複数あり、多額の不用額が生じているが、相手国政府及び自治体等と調整し、引き続き、派遣・招へいが困難な場合には、代替可能な内容等について検討し、不用額の縮減に努める。

外部有識者の所見

これまで実施されてきた「次代を担う青年リーダー、高校生の海外派遣・日本招へい」は施策目標の達成手段としておおむね適切なものと認められるものの、近年の新型コロナウイルス感染者増加のように環境の不確実性が高まる状況下では、施策目標の達成手段としての位置付けが不明確であり、他の手段も検討・実施する必要がある。
また、成果指標について、「事業に参加した日本の青少年のうち、事後アンケートでの“外向き志向”の増加率」としているが、例えば事業内容の「満足度」を評価するなど、事業の成果を適切に測るため一層の工夫が必要である。

行政事業レビュー推進チームの所見

事業の本質的な改善	この事業は、令和3年度決算において多額の不用額が生じていることから、不用額が生じた要因を分析したうえで、予算執行の実績を適切に令和5年度概算要求に反映すべきである。
-----------	--

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

縮減	令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響からやむを得ず実施できなかった事業が複数あり、多額の不用額が生じているが、令和5年度概算要求において一部経費の縮減を行ったところ。 また、成果指標については事業の成果を適切に測ることのできる指標を検討する。
----	--

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	0331			
平成24年度	0332			
平成25年度	0065			
平成26年度	0069			
平成27年度	0067			
平成28年度	0069			
平成29年度	0072			
平成30年度	74			
令和元年度	文部科学省 - 0017			
令和2年度	文部科学省 0017			
令和3年度	2021 文科 20 0017			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

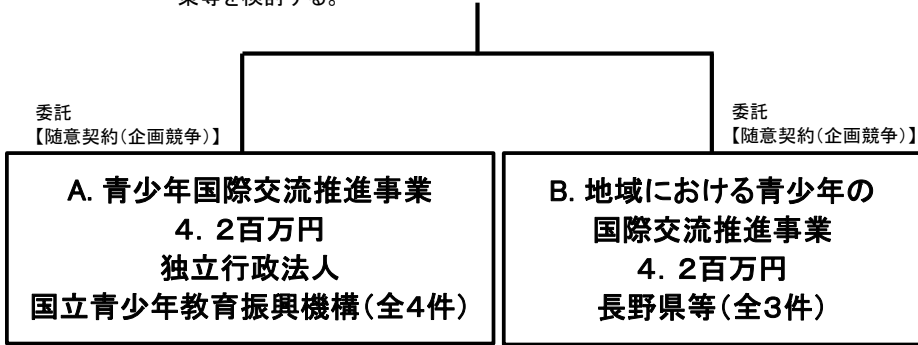
なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

文部科学省
8.8百万円

諸謝金 0.3百万円
委員等旅費 0.06百万円
庁費 0.1百万円 を含む

学識経験者、青少年団体関係者等で構成される事業企画評価委員会を設置し、委託事業・補助事業の採決をはじめ本事業の推進方策等を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



国際化が進展する中において、青少年に広い視野とともに異文化に対する理解や異なる文化を持つ人々と強調して生きていく態度などを育成するため、国内外の青少年及び青少年指導者の国際交流を行い、共同体験を伴う異文化交流や意見交換等を通じて、自己の確立を図り、国際理解を深め、国際性を養うなど青少年の健全育成を図るための事業を実施する。

国際化が進展する中、青少年自らが国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくことが重要な課題となっている。このため、文化の異なる国の青少年を招聘し、概ね1週間程度の宿泊を伴う英語による共同生活を体験する機会を提供することにより、地域への愛着を持ったグローバル人材の育成や英語学習へのモチベーションの維持・向上に資する。

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.独立行政法人国立青少年教育振興機構			B.長野県		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	通訳料等	1.2	雑役務費	講師料・通訳料等	1.7
諸謝金	講義謝金、翻訳謝金	0.3	旅費	国内交通費等	0.5
借損料	会場借上料等	0.2	借損料	会場借上料	0.1
印刷製本費	募集要項、事業報告書	0.1			
通信運搬費	送料	0			
旅費	国内交通費	0			
計		1.8	計		2.3

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								年度	年度
事業後、事業参加者1人あたり50人以上に事業成果の発表を行うこと。 (平成29年度より新たに追加)		事業参加者1名当たりの成果発表対象者数の平均値 (平成29年度より新たに数値を取得)	成果実績	人	172.7	107.6	78.9	-	-
			目標値	人	50	60	60	60	-
			達成度	%	345.4	179.3	131.5	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	「地域における青少年の国際交流推進事業」事業実施報告書								